

今の学校と不登校

1月中旬に「不登校急増、国が予防策」という記事が載っていました。

文科省は不登校の予防策を強化するとして挙げたのが、児童生徒に配布されている情報端末を活用して、その非候を早期に見つけて、不登校を招くような学校特有の状況を調べて改善するという記事です。具体的には1人1台のタブレットのアプリで子どもの精神状態を答えてもらうシステムを全国的に広げる。また学校の雰囲気や特徴が招く可能性に着目、子どものアンケートを元に授業や生活を改善してもらう仕組みを検討するという内容の記事です。これが国の「予防策」ですが、これで増加し続ける不登校を止められるとは考えられないのです。不登校の子どもがタブレットで思いを伝えるのでしょうか。また、イジメやクラスの様子、子どもの思いが持ちは先生はわかるのでしょうか。タブレットで入力された情報ではなく、子どもたちと一日中対峙している先生が子どもの様子や気持ちを肌で感じられないとしたら、その方が問題だと思ふのです。タブレットの情報かどのくらい信用できるのでしょうか。そのことを文科省はどうか考えているのでしょうか。また、各学校にスクールカウンセラーを配置したのですが不登校の増加は止まらず十分でなかったとして、タブレットの活用で予防しようというのですが、その情報で子どもの気持ちが本当に分かるのでしょうか。分かるとしたらなぜイジメで不登校になる子どもがなくなるのでしょうか。不登校で訳がはきりしているのはイジメだけ後の不登校は自分でも説明できないのです。もちろん親にも分からないのです。

その記事を見た後ニュースの特集でイジメで不登校になった事例2件が放映されました。そのひとつは、小5でイジメに会い、学校へ行けなくなり、小6で自死した事例が取りあげられていました。そして自死した後、その親の家に校長と委員会の人が訪ねてくる場面で、親が校長に「息子の当時の学校での様子を教えてほしい。」と質問をしたのですが、その答えが「今調査中なのでコメントは控えます」という答えでした。どこかで聞いたような答えです。校長、委員会の人は何をしに来たのでしょうか。どうして親や子どもに寄り添えないのでしょうか。

今の学校の現場はどうなっているのか教員体制から学校を見ると、どの学校の教員が足りずに嘆息を苦している状況にあるということです。先生に余裕がなく長時間労働が当たり前、また土日出勤も常態化しています。それは少子化が影響しているようです。教員の定数は児童数により、何人と決められていて、少子化の中全国的に全体の児童数が減っているのに教員の総定数も合わせて減少しているのです。その中で35人学級の取り組みで、どの学校でも先生が不足している状況があるのです。つい最近

沖縄で40人学級にするというニュースを目にしましたが、35人から40人にすれば教員の数合せをしているのかなと思いました。これは、川崎でも同じで、ある学校では先生が足りず、担任のいない学級ができてしまい担任外の先生が何人かでやり繰りをして授業をしているという話を聞きました。先生方も余裕がないようです。そして、不登校は増え続け、分現在不登校は24万5千人と増え続けているという状況にあるのです。これから増え続けていくと思うのです。

そして方だち100人できるかな、どんな楽しいことがあるのかなと期待に胸をふくませながら入ってくる子どもたちを待っているのは、こと細かな約束ごとです。筆箱には鉛筆3本と赤鉛筆と消ゴム。椅子の座り方は机との間はグウの握りこぶしで、呼ばれたらハイと返事をして腕は上に真直ぐに挙げるんだよ。などなど約束だらけの生活が続いています。そんな約束あったけと思うくらい、スムーズに生活できるためというのでしょうか。自分たちの生活をより楽しくするために考えなくても、すでに約束ごとが決まっているのですから。言われたこと守りましょうと。困ったことに出会ってはじめてどうしようかと自分たちで考え、話し合わなくてもいいのです。子どもが育つということは困ったことに出会い自分で(自分たちで)どうしたらと考えていくことで、ひとつひとつ自分の生きていく力になるのに。これは勉強も同じように思うのです。先生から教えてもらったことをどれだけ覚え、記憶するかが問われています。そして、テストで良い成績をとれる子がクラスの中で上で取れない子は下という上下関係ができるのです。今は学校だけでは間に合わないとばかり学年全体で同じようなドリルが宿題になります。しかもタブレットに、誰がやっていないかすぐに分かるのです。今、小6中3の全国一斉の学力テストが行われ、その成績は各家庭にお知らせが届くようになりました。(当初は成績は公開しないという前提だったのですが)そして、川崎は今年度川崎独自の学力テストを実施したいと市長さんが提案しています。

今の学校が置かれている状況についていろいろな角度から見ましたが、ひと言でいうと今の学校は、いかによい点数をとり成績を上げよい大学へ行くかが問われる一本道です。そのためには学校だけでは足りないとにかく塾が太はやりです。子どもの放課後ありません。遊ぶことなんかどこかに消えたように、高校からでは遅いといばかり中高一貫校も増え小学校から受験勉強です。このような単一の偏差値教育になっているのは世界で日本だけです。単一の価値で子どもを教育してよいのでしょうか。私にはそう思えません。元々人は多様なのです。その多様性を尊重すべきです。自分のことは自分で決めていいのです。そのためにおしみをなく応援すべきだと思っています。

2023年2月中旬 竹内春雄